

森からのおくりもの

育林の低コスト化へ

高知中部署で現地検討会開催

五月二十八日(水)、低コスト造林現地検討会を高知中部森林管理署管内の杉ノ熊山国有林試験地(エリートツリー植栽による下刈り省力化試験及びシカ食害防止クリップ効果の検証)で開催し、現地視察、意見交換等を行いました。

当日は高知県、いの町、森林総合研究所(関西育種場、四国支所)、森林組合等事業体、四国森林管理局から、次長、計画保全部長、森林整備部長、企画調整課、森林整備課、森林技術・支援センター、徳島・高知中部・安芸森林管理署、技術普及課等から六〇名を超える参加がありました。

開会式(写真上)では、鶴園森林整備部長から、「本会で育林事業の低コスト化に向けて、参加された皆さま方と情報を共有し、今後に活かして行きますよ」との挨拶後、二班に分かれて、エリートツリー、コンテナ苗、シカ食害防止クリップ等現地視察(写真下)等を行いました。また、コンテナ苗用の背負子(しよいこ)、コンテナ苗移植穴開け器実演も披露されました(下段左下)



シカ食害防止クリップ



クリップ(短)



クリップ(長)

クリップは苗木の頂芽に付ける色は、青・オレンジ・黄色

コンテナ苗

苗木運搬背負子・移植穴開け器



背負子



穴開け器(右)

株式会社 サンテクノ製作



「タケの皮」って



タケとササの区別は、

タケは大きくなり成長が終わった後、皮(桿鞘(かんしょう))が桿(幹)から落ちる。

ササは、皮(桿鞘)が成長した後も、桿(幹)にずっと付いている。

一般的にタケが大きく、ササは小さい。タケの皮は、タケが成長し、皮が付いている節の成長が終わった時点で皮が落ちる。タケはササに比べ大型で、地下茎も太く多く連なり、地下茎を維持し成長させるには、多量の栄養を必要とする。

そのため、それまでタケを保護していた皮を落とし、その部分に光りを当て、少しでも光合成のできる面積を増やし、栄養を作りだ出そうとしているのでは。タケやササの皮は、すべて節(節間盤)に。

タケは、タケの下部から成長。その中でも最初に成長を完成させるのが節。節はタケの中で最も大切なもの。タケの皮は、節にしっかりと付き 節を保護している。(フォレストコンサル 134より)

編集後記

前号「知っ得豆知識」の「鎮守の森」について署等から反響あり。神社、お寺それぞれ8万もの数が。まずは各々が身近な森を大切に、そして如何にして後世に伝え残すか。